

あなたと議会の情報ネットワーク

わおそら21

熊本県・みふね町議会

ごみ処理施設を視察 P2～



商工感謝フェアにペアで出演する
ふねまるとくまモン

(撮影日：2021年11月14日 ©2010 熊本県くまモン)

No.170
No.171
合併号
R3.12

進出予定の企業『大栄環境(株)』を視察

産業厚生常任委員会 委員長 岩永宏介

御船町上野に建設予定のごみ処理施設が、当初計画した自治体主体の整備から民間企業による整備・運営へと計画変更された。このことを受け、御船町議会は、進出予定の民間企業、大栄環境(株)が運営するごみ処理関連施設(2か所)を視察し、また施設がある伊賀市の市議会議員(2名)から聴き取り調査を行なった。

『和泉リサイクル環境公園』(大阪府和泉市)

(10月26日視察)

1979年創業の大栄環境(株)が、1980年に開設して1988年に埋め立てを終了した管理型最終処分場の跡地を活用した公園。約76,000㎡の敷地内に約120万トンの廃棄物が適正に処分され埋められている。開園当時は、跡地には草花、樹木は育たない、といった風評が広がったそうだ。今では、梅、水仙、チューリップ、ラベンダーなど、四季折々の草花が絶えず咲き乱れる農園に、またサッカー、野球、グラウンドゴルフなど多目的に使える9,000㎡のグラウンドに生まれ変わり、年間40万人以上が訪れる市民の憩いの場となっている。入場は無料。パンフレットには、「リサイクル事業と地域社会との共生のひとつのカタチ」と書かれている。

『三重中央開発(株) 三重リサイクルセンター』(三重県伊賀市) (10月27日視察)

大栄環境の子会社が運営するごみ処理施設。敷地は全体で70万㎡あり、様々な廃棄物を処理、そしてリサイクルする施設が点在している。中間処理施設の集大成として、2013年には「エネルギープラザ」と称する施設を完成させ、現在操業している。そこには大型焼却炉が2基ずわっていて、ここで発生する焼却灰をリサイク

ルする施設や炭化施設等を備え、廃熱利用による発電施設や地域へのエネルギー供給が可能なリサイクル施設である。



熱を地域へ運ぶトランスヒートコンテナ

大栄環境(株)の歴史と企業としての考え方

1980年創業、地元調整や行政手続き等を行い1984年から廃棄物の最終処分場として埋め立て処分のみを行う。時代の流れとともに、単に処理処分するだけでなく中間処理並びにリサイクルをやっていかなければと考え、埋め立て処分から中間処理へとシフトしていく。

1998年に発電設備を整えた焼却プラントを創業。自治体ではすでにごみ処理施設で発電をしていたが、民間ではほとんど発電まではしていなかった。中間処理施設の集大成として、2013年には「エネルギープラザ」を完成させる。最終処分場から事業を始めて、現在はすでに第8期処分場の建設工事を行っている。1984年、創業時は、わずか15名で事業をやっていたが、今は約500名の従業員がこの施設で業務に従事。敷地も3万㎡から70万㎡と拡大した。

井上副社長は挨拶で「我々は同意行政に縛られていて何かにつけて同意が必要となっている。

全ての施設を建設する上において地域の同意を得ている。地域とのコミュニケーション・地域の理解を得なければ、やはり事業拡大は出来ない。今後とも地域との共存共栄を図る」と述べた。

伊賀市議会議員（議長、議運委員長）への質疑

問 ごみ処理の民間委託に至るまで、市議会はどうに関わってきたか。

三重県では一般廃棄物を固形燃料化して、三重県企業庁の固形燃料発電所で発電するというRDF化事業が、経費が過大となり自治体が手を引いた。それでごみ処理技術では日本随一の大栄環境グループが伊賀市にあったのでお世話になっている。

問 民間事業者によるごみ処理施設整備に関して、地元の町議会として留意すべき点はあるのか。

地元住民の方々と民間事業者が共存できる形に行政も議会も責任をもって、その橋渡しをする必要がある。伊賀市では環境センターがそれを行っている。該当地区には産業対策協議会が設置され、地域と情報を共有して安心の確保を図っている。

大栄環境（株）、三重中央開発（株）への質疑

(1) 三重リサイクルセンターについて

問 事前に地域住民や地域事業者からどのような懸念が出され、会社及び自治体はそれに対してどのように対処したか。

平成14年度当時、RDF化の施設があり、市内の一般廃棄物が集まっていた。その施設がコスト面等から停止に追い込まれ、可燃物を三重中央開発で処理することになった。処理は違う場所をお願いしたいと思った人がいたのは事実。伊賀市が調整を図り、最終的には地域の理解も得られた。

問 環境面、農業面への影響はないか。

先ほど市会議員も申されたように、地域からの苦情はない。地域に迷惑をかけていたら、

ここまで事業拡大は出来なかった。3万㎡で始めた事業が70万㎡になったということは、百聞は一見に如かずということと理解いただきたい。

問 廃棄物を運搬する大型車等による騒音・振動・安全問題等は生じていないか。

地域の理解の下、年間67万トンの産業廃棄物並びに一般廃棄物を処理しているが、騒音・振動・安全問題で影響は与えていない。

(2) 御船町に計画されるごみ処理施設について
問 ボーリングにより事業用水を確保するのか。また、汚水・排水の心配はないか。

安定的に水を確保できるか調査をする。現段階では地下水を利用したい。雨水は調整池で貯留する。メタン発酵、焼却施設で水を使う。焼却棟の水は再利用して最終的には焼却してしまう。御船のメタン発酵棟は30t規模のものを計画している。30tのものであれば30tの水を使用する。その水も焼却処理する。三重のメタン発酵棟は300t規模。御船は焼却で影響が出ないようにするために30tとしている。

問 地元雇用を積極的にすると伺っているが、多くの人材の雇用を希望する。

三重中央開発でも9割弱が周辺地域からの雇用。地域で若いメンバーが幹部社員になり会社を運営していく職員関係に地域雇用の重要性がある。事業所のどこも現地雇用の方々が職員の中心となって働いている。



企業の説明を聞く議員たち

伊勢市防災センター防災体験を通して

総務文教常任委員会 委員長 清水 聖

10月28日、伊勢市防災センターを訪問した。伊勢市防災センターでは、災害全般にわたる防災意識を高めることを目的に、自治会・学校・老人会など幅広い団体へ防災講習会を開催している。今回は、熊本地震の時に実際に御船町で被災者支援業務に従事いただいた伊勢市役所危機管理課の藤原宏之氏に「御船町の為に執

る防災発生直後の対応」と題して講義いただいた。また、同防災センターには楽しく学べる防災体験学習室があり、防災教育の先進事例として御船町地域防災の充実をはかるうえでの参考となった。今回の視察を通し、激じん化している自然災害に議会としてどう対処していくか改めて考えることができ、大変充実した研修となった。



感染症対策にも役立つ室内用テント



水没した車のドアの重さを体感

町商工会との活発な意見交換

報告書は
こちらから



産業厚生常任委員会 委員長 岩永宏介

11月26日午後6時から御船町商工会で、町民と議会の意見交換の場である「あおぞら会議」を開いた。この会議は、御船町商工会から町議会に対して申込みがあり開かれたものだ。

商工会からは、会長、副会長、理事の合計7名、議会からは、議長、副議長、当委員会委員の合計7名が参加し、予定の90分間をフルに使って活発な意見交換を行った。

まず、商工会から「議員は、日頃どんな仕事をしているのか」や「都市計画マスタープランや町総合計画はどのように策定されるのか」等の質問に議員が回答した。また、「小規模事業者支援策の条例の制定」や「商工会に対する各種助成金」などの要望事項について意見交換を行った。

12月3日開催の全員協議会において、『あお

ぞら会議結果報告書』を全議員に配布し、情報の共有を図った。

議会には予算案の提出権はないが、意見や要望は確実に町へ伝えて、町政に反映できるよう提案、提言をしていきたい。





その他の審議内容は
こちらから！



補正予算



一般会計補正予算 補正額 +83,632千円 補正後合計 11,757,160千円



情報通信基盤施設運営事業特別会計

補正額 +39,542千円 補正後合計 128,879千円



「まん防」期間中の減収を補てん
まん延防止等重点措置が発出されて
いた月の収入が、前年もしくは前々
年の同じ月の収入より30%減少した
事業者に対し、交付金を支給します。

図 事業者応援交付金の概要はどうなっているか。

商工観光課長 町に事業所を有し、かつ熊本県に
発出されたまん延防止等重点措置の影響で、令和
3年5月、6月、8月、9月、いずれかの売上が
前年または前々年の同月と比較して30%以上減
収した事業者が対象。法人には20万円、個人事業
者には10万円を交付する。

なお、新規開業の場合は、開業年の月平均売上
との比較で減収率を算定する。合併等の場合は、
合併後の事業所の売上高と、合併前の全ての事業
所の合計との比較で減収率を算出する。その他の
特例的取扱い、熊本県の事業継続・再開支援一
時金の取扱いを準用する。



光ネット民間へ移行

民間移行に伴い、役場3階にある光
ネットワークのセンター局を移転す
るため、新センター局が御船高校グ
ラウンド東側に建設されます。

図 新センター局を企画、整備するための事業費
の説明を。

総務課長 御船光ネットワーク民間移行に伴って、
6月1日に移行先のQTnet（キューティーネッ
ト）と基本協定書を締結した。新センター局の用
地費、局舎新設、加入者の装置新設、ケーブル新
設の整備費の2分の1を町から支給する。

図 建設場所、工事の着工、完成はいつか。

総務課長 御船高校グラウンドの東側が最終的な
予定地である。令和5年1月末までには整備完了
する予定だ。

委員会報告

広報研修にオンライン参加

広報編集特別委員会 委員長 井藤はづき

11月4日に町村議会広報研修会がオンライン形式で開催された。御船町は玉東町、南関町、長
洲町、南阿蘇村など7町村と同じグループに配属。講師の越地真一郎氏の講演を受けた後、各町
村の広報誌について意見交換を行った。当町が提出した「あおぞら21」163号（2021年4月発行）
に対しては、以下のような意見があった。

評価できる点

- ・毎月発行の中での大胆なリニューアル
- ・高校生や議会モニターなど多くの町民の登場
- ・紙面には審議内容の抜粋を記載し、他はホームページ
などを案内することで、情報の整理ができている など

課題がある点

- ・キャプションの文字が小さい
- ・議案が可決されたのかわからない
- ・議案一覧中の「PickUP」項目が目立たない
- ・小見出しと本文の区別がつきにくい など

所管事務調査

福祉課

- ・避難行動要支援者名簿の見直し

農業振興課

- ・実効性ある「人・農地プラン」への見直し
- ・有害鳥獣被害防止対策事業
- ・農地等災害復旧事業
- ・「農業振興地域整備計画」に関すること
- ・地籍調査業務

商工観光課

- ・観光施設及び公園等管理業務
- ・今後の企業誘致の拡大

建設課

- ・町道等の維持管理
- ・道路改良工事
- ・町営住宅の維持管理

こども未来課

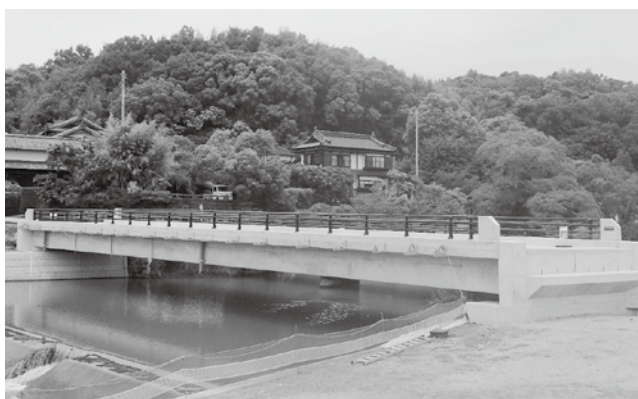
- ・子ども家庭総合支援拠点の設置
- ・御船町要保護児童及びDV防止対策地域協議会の体制強化

健康づくり保険課

- ・感染症予防対策事業
- ・健康増進事業（住民健診、保健指導等）に関すること
- ・国保事業費納付金・標準税率に関すること

環境保全課

- ・老朽化した水道管の布設替工事
- ・北木倉管きょ築造工事
- ・一般ごみ収集事業
- ・不法投棄防止対策事業



架け替え工事が進む四宮橋（北木倉地区）



有害鳥獣対策研修会の様子

令和3年6月29日(火)～30日(水)

産業厚生常任委員会

所管事務調査は所管課の課題と現状を把握し、条例案の立案・事務の改善策を究明することを目的に行われ、当日は執行部から各課の課題と現状について説明を受けた。

総務課

- ・御船町人材育成基本方針の改定
- ・地域防災力の強化に関すること
- ・本庁舎外壁改修設計及び工事
- ・遊休施設等の利活用

町民税務課

- ・マイナンバーカードの交付事務
- ・戸籍事務
- ・町税の賦課並びに賦課資料調査
- ・町税及び国民健康保険税の滞納整理・滞納処分に関すること

企画財政課

- ・御船町管内図作成業務
- ・ふるさと納税推進事業
- ・地域公共交通計画策定業務
- ・新型コロナウイルス感染症対応
地方創生臨時交付金

会計課

- ・税金等の収納、支払いに関すること

学校教育課

- ・不登校・不登校傾向児童の対応
- ・学校施設の老朽化
- ・七滝中央小の児童減少に伴う対策
- ・中学校トイレ改修及び
タブレット端末の利用状況（現地視察）

社会教育課

- ・社会教育施設維持管理
- ・カルチャーセンター管理・運営
- ・町民スポーツ大会及び
地区対抗駅伝大会の開催の可否
- ・化石の収蔵庫の整理、
資料のデジタルアーカイブの構築、
恐竜博物館運営（特別展）について



御船中タブレット保管庫を視察



御船中学校にてタブレット活用状況の説明を受けた

令和3年11月15日(月)～16日(火)

総務文教常任委員会

吉無田高原からの始まり

7年前、吉無田高原を通った時にふと目にしたのが、マウンテンバイクで山を駆け下っている人達でした。その瞬間、衝撃が走り、そこから「マウンテンバイク」が始まり、毎週、吉無田高原へ練習に通っています。私たちは、下りを走るダウンヒル競技が専門です。危険とも隣り合わせで怪我も絶えません。マウンテンバイクをしている時はとても幸せです。長野県や、兵庫県、山口県など、県外の大会にも参戦しています。大会でいい結果を出せない時は辛いです。サポートをして下さる方々に励まされてマウンテンバイクが出来ているという事を



古閑迫
井ノ一兄弟
左) 涼介さん 右) 公史郎さん

実感しています。忘れられない出来事は、熊本地震の際にマウンテンバイクを通じて仲間になったたくさんの県外の方々から、心のこもった暖かい支援を頂いたことです。当時は、ちゃんとしたお礼の言葉も伝えられない状況でしたが、熊本県で大会がある時はそのことを忘れず、恩返しつもりで色々と協力をして行こうと思っています。

吉無田高原から始まった「マウンテンバイク」を通して、人と人との繋がりや絆が、どんどん深まっています。これからも、感謝と初心を忘れず、練習に励んで行こうと思います。

議会の予定 1月

7日(金) 全員協議会



◀ 議会HPIはこちら



ジャパンマイコンカーラリー九州大会で優勝した御船高校マイコン制御部

モニターコラム

風

この町で生まれ育ち教職40年。退職後これから地域

貢献へ、との思いから町行政の現状と課題を知るべく今回議会モニターに応募致しました。議会は、コロナ禍の影響で自粛していた傍聴もこの10月より再開され、町長はじめ町執行部や議員の皆様方が真剣に議論していらっしゃる姿を拝見することができま

す。傍聴していて身の引き締まる思いです。正に、町の発展振興

の心臓部であることを実感致します。私は、これまで教職の立場から見えていた町行政を一町民として見るようになり、改めて課題が山積していることを学んでいます。今後の自分に行けるかを模索しながら、少しずつではあります。が町発展のため貢献できるよう努めて参りたいと思います。



本田尚一
議会モニター